

天竜川下流部におけるヒメビロウドカミキリの分布

長谷川道明*

Note on the distribution of *Acalolepta degener* (Bates, 1873) (Coleoptera, Cerambycidae)
in the lower reaches of River Tenryu, Shizuoka Prefecture, Japan

Michiaki Hasegawa *

はじめに

ヒメビロウドカミキリ *Acalolepta degener* (Bates, 1873) は、平地から山地の明るい草原を生息地とする日本では数少ない草原性のカミキリムシとして知られる。国内では、本州、四国、九州と対馬に分布し、成虫はオトコヨモギ *Artemisia japonica*, ヨモギ *Artemisia indica* var. *maximowiczii* に集まり、幼虫はオトコヨモギを寄主植物とすることが知られている。

本種は近年の草原環境の減少と悪化によって急速に生息地が失われており、少なくとも 25 都府県で、レッドリストに掲載されている。東海 4 県では、愛知県 (2009) と三重県 (2006) でそれぞれ「絶滅」、静岡県 (2004) で「情報不足」にランクされている。

岐阜県では、1944 年に羽島郡中屋村 (現・各務原市) の木曽川河川敷で採集された 1 羽の記録 (大林, 1944) があり、これが本種の本州での最初の記録となっているが、その後の 65 年間に生息に関する情報は追加されていない。レッドリストにこそ掲載されていないが、絶滅している可能性が高い。

「情報不足」としてランクされている静岡県では、富士山周辺で未発表の数例の採集例が知られているほか、採集年月日不詳であるが浜北市 (現・浜松市浜北区) で採集されたという記録 (標本?) が存在するのみである (市川ほか, 1988)。以上のように本種は、少なくとも富士川以西から三重県に至る東海地方からは生息情報が久しく途絶えた状態になっていた。

筆者は、2008 年から 2009 年にかけて天竜川下流域を中心に本種の生息調査を行い、数か所において本種の生息を確認することができたので報告する。なお、保全上の配慮から詳細な生息確認地の地名を伏せて報告することをご了承願いたい。

本文を草するにあたり、三浦市の大林延夫博士、(株)環境指標生物の新里達也博士には、数々の貴重なご助言と資料のご提供をいただいた。また、名古屋市の湯沢宜久氏には、11 月 10 日の調査にご同行いただいた。心よりお礼申し上げる。

調査方法

調査は、成虫の発生期と考えられた 5 月下旬から 6 月中旬、並びに幼虫の生息状況とオトコヨモギの生育地を調査する目的で 10 月、11 月にも行った。調査地域は、天竜川の河口から約 45km までの間とし、この区間に出現する A ~ L 地点の河川敷 12 地点 (第 1 図) について、徒歩で幼虫の寄主植物であるオトコヨモギを探索し、成虫または幼虫の発見に努めた。なお、本種は、絶滅危惧種であることから、採集は、記録の証拠標本となる最小限にとどめた。

調査日並びに調査地点は以下の通りである。

2008 年 6 月 14 日 I

2009 年 5 月 23 日 H

2009 年 6 月 1 日 G, E, D, B

2009 年 6 月 7 日 C, F, J

* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History. 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan.

原稿受付 2009 年 11 月 28 日. Manuscript received Nov. 28, 2009.

原稿受理 2009 年 12 月 8 日. Manuscript accepted Dec. 8, 2009.

キーワード: ヒメビロウドカミキリ, オトコヨモギ, 天竜川, 静岡県, 絶滅危惧種.

Key words : *Acalolepta degener*, *Artemisia japonica*, Tenryu River, Shizuoka Prefecture, endangered species.

2009 年 10 月 10 日 A

2009 年 11 月 8 日 D, G, K, L

結 果

調査結果を第 1 表に示す。寄主植物であるオトコヨモギは B, C, D, F, G, H, I, J の各地点で確認された。このうち C, D, F, G, H, I 地点では、群生がみられたが、B, J 地点では単独にわずかな株が確認できたのみであった。

ヒメビロウドカミキリは D, G, H の 3 地点で確認された。C, F 地点ではオトコヨモギの大きな群生があるにも関わらず、ヒメビロウドカミキリを確認することはできなかった。これは調査を実施した 6 月 7 日にはすでに成虫の出現期が終わっていたためかもしれない。

H 地点では 2009 年 5 月 23 日に 3 時間程度の目視による成虫の探索を行った結果、12 ♂♂, 6 ♀♀の計 18 個体が確認された。生息密度には多少とも場所による偏りが認められ、狭い地域のオトコヨモギの群生地に集中してみられた。なお、交尾中の個体は観察されなかった。D, G 地点では 2009 年 6 月 1 日にそれぞれ 2 時間程度の探索を行い、D 地点では 12 ♂♂, 6 ♀♀, G 地点では 10 ♂♂, 4 ♀♀が確認され、それぞれ交尾中の個体も数ペア見られた。また、2009 年 11 月 8 日には、D, G 各地点でオトコヨモギの根茎中からそれぞれ幼虫が確認された。

以上のことから、天竜川においては、ヒメビロウドカミキリは、河口から約 15km ~ 20km 間の河川敷に広がる草原に生息しており、成虫の出現期は、およそ 5 月中 ~ 6 月初旬であると考えられた。

[標本]

証拠標本として D, G, H 各地点で以下の標本を採集した。標本は豊橋市自然史博物館に保管される。

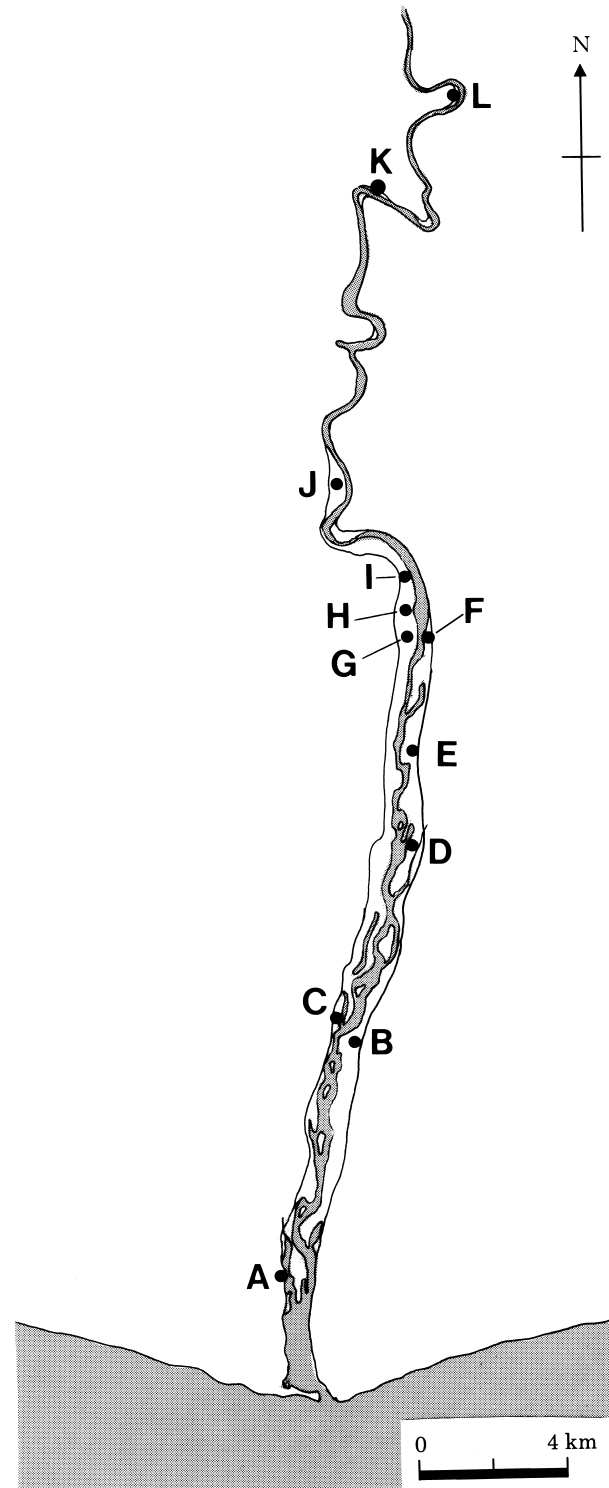
D : 1 ♂ (TMNH-I-21578), 1 ♀ (TMNH-I-21579),
1-VI-2009, 長谷川道明採集。

G : 1 ♂ (TMNH-I-21580), 1 ♀ (TMNH-I-21581),
1-VI-2009, 長谷川道明採集。

H : 1 ♂ (TMNH-I-21582), 1 ♀ (TMNH-I-21583),
23-V-2009, 長谷川道明採集。

第 1 表. 調査結果.

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
オトコヨモギの自生状況 (++は群生が認められた地域)	-	+	++	++	-	++	++	++	++	+	-	-
ヒメビロウドカミキリの確認状況	-	-	-	+	-	-	+	+	-	-	-	-



第 1 図. 調査地点.



第2図. 生息地の景観.

a, D地点の生息地の様子(2009. 6. 1); b, 寄主植物オトコヨモギ(H地点, 2009. 5. 23); c, ヨモギに集まる成虫(D地点, 2009. 6. 1); d, オトコヨモギ上で交尾中の個体(G地点, 2009. 6. 1); e, オトコヨモギ根茎中の幼虫(G地点, 2009. 11. 8); f, 破壊されたD地点の生息地(写真aとほぼ同地点を写す, 2009. 11. 8).

補 足

天竜川下流域における本種の生息地は、東海地方のみならず、中部地方でも最大規模である可能性が高く、本種の保全上重要な地域であると位置づけられる。し

かしながら、本生息地には以下の脅威が存在すると考えられ、何らかの対策が必要である。

1) コレクターによる採集圧

ヒメビロウドカミキリは、コレクターの間では人気

が高い稀種であり、標本がインターネットオークションなどで金銭取引もされている。天竜川の生息地は比較的わかりやすい場所にあり、車で容易に進入できること、成虫、幼虫ともに容易に多数の個体が採集できてしまうことから、コレクターによる採集圧を受ける可能性が高い。

2) シナダレスズメガヤの分布拡大による影響

生息地ではすでに侵略的外来牧草であるシナダレスズメガヤ *Eragrostis curvulus* が分布拡大しており、この影響により河川環境の変質、寄主植物であるオトコヨモギの生育に阻害などが起こることが予想される。したがってこのまま放置すれば本種の保全上の大きな脅威となると考えられる。

3) 河川敷の管理・改修などによる影響

新里ほか（2009）は、多摩川における本種の保全に関する研究から、ヒメビロウドカミキリの幼虫が利用しているオトコヨモギは、根茎部が太く発達した個体であり、生息地の保全にはオトコヨモギが長期間にわたり安定して生育しうる草原環境の維持が必要であること、洪水などによる氾濫の機会が稀となった現在の河川環境では、河川敷の定期的な草刈りが本種の生息地保全に強く関与していることを述べている。

しかし一方で、河川敷の工事によって生息地が失われることもある。2009年6月1日に本種の多くの個体が確認された地点Dでは、11月8日に再び訪れた際に、樹木の伐採・除去工事によって、大部分の地域が破壊されてしまった（第2図f）。ヒメビロウドカミキリは、幼虫期をオトコヨモギの根茎中で過ごすため、洪水や火入れによる影響はほとんど受けることがないと考えられるが、重機で表層を完全に取り去られれば、生き残るすべはない。また成虫の発生期に草刈りが行われれば大きな影響を受けることが予想される。

引用文献

- 愛知県, 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生動物 レッドデータブックあいち 2009. 愛知県, 650p.
- 市川恭治・奥田宣生・草間慶一, 1988. 静岡県のカミキリムシ. 静岡の甲虫, **6** (2): 3-81.
- 三重県, 2006. 三重県レッドデータブック 2005 動物. 三重県, 498p.
- 新里達也・武田雅志・北里周生, 2009. 多摩川流域におけるヒメビロウドカミキリ個体群の分布と保全. 日本鞘

翅学会第22回大会・日本昆虫学会関東支部第46回大会合同大会講演要旨集, 東京農業大学, 12.

大林一夫, 1944. 日本産天牛類の習性と分布 (10). 昆虫世界, **48** (9): 166-167.

静岡県, 2004. まもりたい静岡県の野生動物—県版レッドデータブック—, 動物編. 静岡県, 351p.